



長崎大学医学部創立150周年記念ロゴマーク

医学部のロゴマークにはシーボルトノキが用いられている。牧野富太郎は鳴滝塾にあったクロウメモドキ属の新種に *Rhamnus sieboldii* Makino と命名した。後年中国の *Rhamnus utilis* Decne と同種である事が判明した。シーボルトが中国から取り寄せたのである。鳴滝の原木は枯れ、その一部が医学分館にある。この木は教育学部の庭で見ることができる。



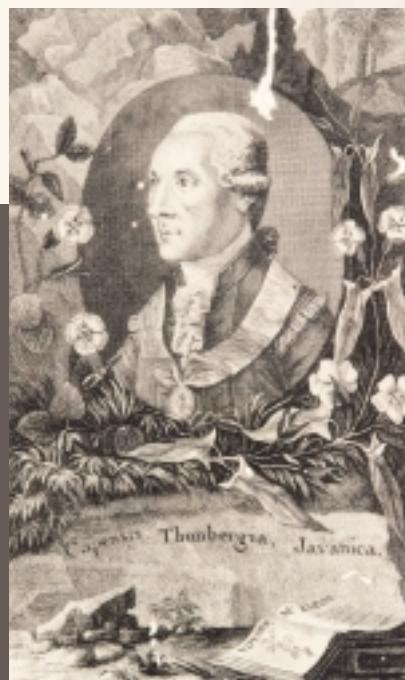
◀① フォン・シーボルト像  
医学部前庭にある東京芸大教授 西大由氏によるシーボルトのレリーフ。シーボルトが建立した出島のケンペル、ツュンベリー顕彰碑のラテン語銘文がレリーフの支柱に刻まれている。

出島にはシーボルトがケンペルとツュンベリーの顕彰の為に建立した石碑がある。碑には「ケンペル、ツュンベリーよ、みてください。あなたの方の植物がここに毎年緑きそい咲きてて、植えた主を忍んで愛らしい花のかづらをなしつつあるのを」とある。出島にはこの3人のようないい優れた博物学者が赴任し、日本の動植物や風俗を調査して世界に紹介する一方、最新の科学知識を日本に伝えた。医学部のシーボルトレリーフの支柱にもこの銘文が刻まれている①。

## 日本植物学の父 ツュンベリー

シーザー・カール・ペーター・ツュンベリー (1743~1828) はスウェーデン生まれ、ウフサラ大学で近代植物学の祖リンネに学んだ。リンネは植物を雄しへの数と雌しへの花柱の数で綱と目に分類した。自然の秩序の素晴しさを性の体系により明解に示したので、多くの人々が驚嘆した。リンネは弟子達を世界の植物を分類する為に派遣したツュンベリーもその一人である②。1771年ツュンベリーはアムステルダム大学ヒューラン教授の元に遊学生として、教授の持つ喜望峰の珍しい標本群に心を惹かれた。教授は日本の植物学調査のための資金を調達してくれた。まず東

イングランド会社の医師となり、喜望峰でオランダ語を身につけた。北を山脈で遮られた喜望峰は、独立した生物界を形成していた。3年をかけて未知の喜望峰界をくまなく探検し、多くの動植物の標本を採取して、後年『喜望峰植物誌』を完成させた。



◀② ツュンベリー肖像  
肖像を取り巻く植物は、ツュンベリーが喜望峰で採取した標本 *Tunbergia capensis* である。また *Tunbergia javanica* もある。彼の師リンネは、属名をツュンベリーに献じた。Resa uti Europa, Africa, Asia ツュンベリー著、長崎大学附属図書館経済学部分館蔵より。



〔③〕 Flora Japonica® 日本植物誌  
(ツュンベリー著、長崎大学附属図書館医学分館蔵)

長崎大学  
医歯薬学総合研究所

相川忠臣  
教授  
Aikawa Tadaomi

# 《出島の博物学者とその医学》

Aikawa Tadaomi

伝授して認められ、ついに田島を出て薬草を採取する事を許された。1776年江戸参府の折には箱根で採取に「そじみ」江戸で解体新書に関わった桂川甫周や中川淳庵と会い、本草学の書を譲り受けた。後年彼は「日本植物誌」を著した。<sup>③</sup>「シーボルトは」の書を伊藤圭介に「圭介は」の書を基に『泰西本草名疏』を著してリンネの植物の分類を紹介した。梅毒に昇汞（塩化第一水銀）を使用する方法を通詞の吉雄耕牛に教えた。その劇的な治療効果により、長崎で多くの患者がその治療を受けたようになつた。1776年出島を離れ、1779年母校のウフサウ大学に戻った。既に大リンネは逝去して、その息子小リンネが植物学教授であった。後その跡を継ぎ教授となり、学長も務めた。

## ジョン・シーボルトの 医学と博物学

方法を通詞の吉雄耕牛に教えた。その劇的な治療効果により、長崎で多くの患者がその治療を受けるようになった。1776年出島を離れ、1779年母校のウラサラ大学に戻った。既に大リンネは逝去して、その息子小リンネが植物学教授であった。後その跡を継ぎ教授となり、学長も務めた。

本草学から脱皮した日本の植物学が始まった。日本の植物の学名を翻訳するにハグロー、ホルト等の語が多用される。ハグローはナガサキヤナギの種名で *Spiraea thunbergii* Sieb. と尊敬するナガサキハグローの名を翻訳したものである。日本名を翻訳した植物名につれてナガサキヤナギの種名で *Cammellia sasanqua* Thunb. [④] や *Prunus mume* Sieb. et Zucc. がある。

また、シーボルトが発見するお滝さんに捧げて美しくアジサイを *Hedera* *otaksa* と命名した。地味な力クアジサイを *Hedera azizai* と命名した。アジサイは長崎では今もオタキサン花と呼ばれ、市花として親しまれていた。しかし、アジサイの現在の学名にはお滝さんの名は無くなっている。



[⑥] ガクアジサイ *Hydrangea azisai* Sieb. 現在の学名は *Hydrangea macrophylla* Ser.f. *normalis*



[⑤] アジサイ *Hydrangea otakiana* Sieb. et Zucc. 現在の学名は *Hydrangea macrophylla* Ser.f. *macrophylla*



[④]サザンカ *Cammellia sasanqua*  
Thunb. Flora Japonica 『日本植物誌』  
(シーボルトとツッカリーニ共著、長崎大学  
附属図書館医学分館蔵 収入)



[⑦]鳴滝塾舎之図  
長崎の画家成瀬石によって描かれた水彩画。  
(長崎大学附属図書館経済学部分館蔵)

国から多くの俊秀が集まつた<sup>(7)</sup>。1828年江戸で天文方高橋景保<sup>（あかはしやす）</sup>が禁の日本地図を彼に渡した罪で逮捕され、世に有名なシーボルト事件が起つた。弟子や友人が刑に処せられ、シーボルトは1829年末国外に追放された。その後19年間も出島の商館医は不在となり、日本は急激に進歩した西洋科学の受入の窓口を失つた。

シーポルトは通詞の吉雄毛と櫛林宅を訪問して講義し治療した。白内障手術は日本では水晶体を墜下していたが、彼は散瞳薬を用い水晶体を摘出した。土生玄碩は瞳孔が閉じて盲目となつた患者に針で穴を開けていたが、彼は光学的に虹彩を切除した。彼の名声が高まり門下生が